

---

# バカとテストと召喚獣～ボクラノ学園生活～

ゆーり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣～ボクラノ学園生活～

### 【Zコード】

N6741Z

### 【作者名】

ゆーり

### 【あらすじ】

明久たちが繰り広げる、ドタバタラブコメディー  
ときどきシリアルになつたりするかもだけど、基本はギャグです。  
彼等に終わりはあるのか！？

## 設定（前書き）

明久には婚約者がいた。

彼女がもたらすものは幸福か、それとも絶望か・・・。

以下、あらすじより抜粋

明久たちが繰り広げる、ドタバタラブコメディー。

ときどきシリアスになつたりするかもだけど、基本はギャグです。

## 設定

### 設定

#### 佐崎悠里

明久の婚約者（親同士が決めたもの）で、中学校3年間はアメリカにいた。

高校生になって、日本に帰ってくる。

明久のことが好きだが、明久には気付いてもらえない。

そのため、友達以上恋人未満のようなもの。

明久以外の人には全員敬語だが、特別の枠に入ると口調が変わる。外見は翔子を明るくした感じ、中身はツンデレ。

#### 一ノ瀬桜咲

明久の中学からの親友、はたから見ればいやつらカッフル（本人等は自覚なし）。

恋愛については明久並みの鈍感。

悠里が来てから、明久に対する態度に変化が見られる。

学力は明久と変わらない。

外見は秀吉の髪を少し伸ばした感じの可愛い系、中身は周りから一步ひいたような感じ。

#### 御堂和真

明久の高校からの友達。年上の彼女がいる。なんでもこなせる器用さん。

#### 吉井明久

原作よりも頭が良く、喧嘩も強い。

悠里の婚約者が恋愛感情ではなく、桜咲にも今のところ恋愛感情はないもよう。

だが、桜咲が男と話していると嫉妬しているようなところがある。和馬には心を開いている。

また、小学校と高校になつてからの性格に違いがある。

## 設定（後書き）

ありがとうございました。

## プロローグ（前書き）

一ノ瀬桜咲

どんな口調にすればいいのかな。  
むずかしい・・・

## プロローグ

「明久～、早くしないと遅刻しちゃうよ。」

「『めん、もひかよつと待つてー。』

吉井明久、寝坊しました。

そんな僕を急かしているのは、一ノ瀬桜咲。大切な親友です。

「いいかげん、早くしないとおいでへよー。」

「今いくよ～。」

いつとくけど寝坊したのは僕のせいじゃないんだよ。

昨日買つたゲームが面白くてやめられなかつたせいだ……。

「もう、今日から2年生なんだよ？ 一日目から遅刻するなんてありえない。」

「『めんつてば。なんならおんぶして走つてこいつか？』

「……何言つてるの。ヘンタイ？」

今一瞬、桜咲の動きがとまつた。

てゆうか、なんでおんぶで変態になるのかわかんない。

「『めん、冗談だよ。』

「んな、冗談言つな。反応に困るからね！」

「あはは、早く学校行こ？」

「お前が言つなーー！」

ちなみに今、僕らはちゃんと歩いてる。

僕らが通う学校は、坂を上ったところにある。  
これがまた、結構きつい。

そんなこんなで学校にはついたものの・・・

「あちゃー、鉄人いるよ。」

校門の前で仁王立ちしているのは、西村宗一。  
生活指導の鬼として恐れられる先生だ。

まあ、いい先生だとは思うけどね・・・。

「お前らつ、遅刻だぞーーー！」

『すみません、鉄人。』

あつ、ハモつた。

「本当に、お前らは・・・。」

そのまま鉄人は口を閉ざしてしまった。  
なんだろうね？

「ほれっ、結果だ。2人ともAクラスだ。」

『ありがとうございます。』

僕らの通う文翔学園は、2年生から振り分け試験というものでクラスを分ける。

A～Fクラスまであり、簡単にいえばAクラスは頭がすぐいい人の集まりで、

Fクラスはすぐバカが集まる。

設備もクラスによつて違うらしく、噂ではFクラスは卓袱台に座布団。

それに窓も黒板もおんぼろだと聞いた。

それが嫌で、僕らは春休みに猛勉強した。

そうじやなきや、1年の頃の成績だとFクラス決定だったからね。毎日寝る間も惜しんで勉強して、本当によかつた。

「よかつたね」

「うん…よかつたよ。」

毎日寝る間も惜しんで勉強して、本当によかつた。

そんな僕らは知らない。

Fクラスが本当に、噂どおりのおんぼろ教室だということを…。

僕は知らない。

Fクラスに、彼女がいることを・・・。



## プロローグ2

「Fクラス……そこは噂どおりのひどい教室だった。足の折れた卓袱台、腐った畳など、廃屋そのもの。

そんなFクラスは今、自己紹介をしていた。

たくさんいるメンバーの中でひとりを立っている少女。

「佐々木悠里です。中学校3年間アメリカに住んでいましたが、英語は苦手です。

小学校まではこの近くに住んでいました。突然ですが、召喚戦争しませんか？」

そう言い放つと、平然と席に座る彼女。

それに続いたように赤い髪の少年が呆然とする全員（悠里をのぞく）に詰つ。

「Fクラス代表、坂元雄一だ。

早速だがみんなに聞きたい、このクラスに不満はないか？」

それに対し、クラスの大半がこう言った。

『大アリじやあああ！』

「そりだらうな。そこで、俺たちはAクラス召喚戦争をしたいと思つ。

勝つてAクラスの設備を俺たちのものにしようじゃないか。

ちなみにAクラスには学園一の美少女、一ノ瀬桜咲がいるそう

だ。

全員準備はいいか?」

『おおおおお〜!』

「のとき、クラス（のおもに男子）の一人はひとつになつた。

そして・・・

「まさかAクラスにいるなんて思つてもなかつたわ・・・明久。  
それにしても一ノ瀬桜咲つてどんな子なんかしらね。」

そう言つて不敵に笑う悠里。

彼女の目的はなんなのか。

ある意味最強なFクラス。

彼らはAクラスに勝つことができるのか。

「俺たちは勝てる、絶対になーーー!」

## プロローグ2（後書き）

ちなみに和真は明久たちと同じAクラスです。

Aクラスについて。

今の僕の心は、驚きでいっぱいです。

個人用の冷蔵庫、エアコン、ノートパソコンなど、まるで家のような空間ができている。

・・・もしかしたら家よりすゞいかも知れない。

ふと、桜咲を見てみると、同じように驚いているのか口を開けてポカンとしている。

「桜咲、口開いてるよ。」

「えつ、ほんと?」

「うん。」

「うー、気を付けてるつもりなんだけどな・・・。」

「しょうがないよ、今のは。」

桜咲は喋つたりしない時に口を開いちゃう癖がある。

本人は直そうと必死なんだけど・・・。そのことで男子に笑われたことがある。

そのせいでいろんな子にからかわれて傷ついたことがある。

今思えば、好きな子ほどいじめちゃつていうのだったのかもしれないけどね。

ちなみにそいつはあとでボロボロしたよ

「明久、桜咲。ドアの前でつゝ立つてないで教室に入つたの？」

『あつ、優子。ねはよつ。』

僕らに話しかけてきたのは、木下優子。

中学校からの友達だ。最初はあまり仲良くなかったけど、いろいろあって

今ではよく遊んだりするくらいの友達だ。

他にも優子の双子の弟の秀吉やムツツリーにこと康太も同じ中学で高校も一緒の友達だ。

秀吉と康太はたぶんFクラスかな？

秀吉は演劇一筋だし、康太は保健体育にしか興味がないからね。

「みなさん、席についてください。自己紹介を始めます。  
私が担任の高橋です。1年間、よろしくお願ひします。

まずは、学年代表の霧島さんから一言を。」

担任は高橋先生か。ちょっと苦手なんですよ……。

「……霧島翔子。よろしく……。」

やつぱり学年代表は、霧島さんだね。

すんごく頭が良くて、新入生代表でも挨拶してたつけ。

……なんかめちゃくちゃ見られてる気がするけど、気のせいだよね？

「御堂和真です。彼女はいます。

手を出したりしたら瞬殺するんで、よろしくお願ひします。」

和真、同じクラスだつたんだ。ていうか、怖すぎるよ・・・。  
和真も同じ中学だつた。

頭もよくて喧嘩も強いから、いろいろ教えてもらつたんだよね。

「木下優子よ。1年間よろしく。」

次は桜咲かな？

「一ノ瀬桜咲です。あまり人と関わるのは好きじゃないですが、  
1年間よろしくお願ひします。」

みんな普通の反応だ。もつとすごいと思つてたけど。  
これがFクラスだつたらどうなつてただろう。

・・・なんか今、すごい気持ち悪くなつた。

「明久、大丈夫？次、明久だよ。」

「うん、大丈夫だよ。」

よしつ、ちやんとしなきやね！

「吉井明久です。みなさぬについていけるよう頑張ります。」

ふう、大丈夫だよね？

「それでは以上で自己紹介を終わります。1限目が始まるまでは  
各自、自由にしていて

下さい。設備に不備がある場合はその間に私のところまで言い

に来てください。

また、これから召喚戦争が何度かあるかもしませんが、決して負けないよう。」

召喚戦争か・・・雄一は何か仕掛けてきそうだな。気を付けないと・・・。

何事もなく終わればいいけど、何か嫌な予感がするんだよね。

「明久、優子たちのところに行こう。」

「うん、そうだね。」

まあ、今はいいか。

その時になつたら考え方。桜咲たちにも相談できぬしーーー！

## 第一話（後書き）

次回からバカテスをする予定です。

## バカテスト

### バカテスト

#### 第一問

問 次の問いに答えなさい

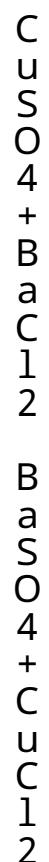
硫酸銅五水和物を塩化バリウム水溶液にくわえて加熱すると、何が生成されるのかを  
答えなさい。但し、硫酸銅五水和物と塩化バリウム水溶液はすべて  
反応したものとする。

木下優子・御堂和真の答え

『硫酸バリウム・塩化銅・水』

教師のコメント

正解です。こちらの反応は化学式で表すと



となります。ですが、その前に硫酸銅五水和物を水溶液に加える  
ことにより、



という反応が起っています。その為、生成されるものの中には  
水も含まれるという  
ことになります。

吉井明久・一ノ瀬桜咲

『硫酸バリウム・塩化銅』

教師のコメント

一人とも惜しいですね。これからも頑張って欲しいです。  
しっかりと復習しましょう。

佐崎悠里

『ティミグラスソース』

教師のコメント

・・・・・・・・・・・・・・?

第一問

問 以下の空欄に当てはまる語句を答えなさい  
ミケランジェロはダビデ像を制作した『彫刻家』や、システィーナ礼拝堂の天井画を  
描いた『画家』としても有名だが、他にも という顔を持つ、多才な人物であった。

吉井明久・一ノ瀬桜咲の答え  
『建築家』

教師のコメント

正解です。ミケランジェロの代表的な建物としては、サンピエトロ大聖堂やサンロレンツォ教会図書館などが挙げられます。あわせて覚えておくと良いでしょう。

土屋康太の答え

『家では家庭的なお父さん』

教師のコメント

間違えではありますが、こういう答えは好きですね。

彫刻家や画家として有名でありながら、子供に優しいお父さん。  
なんとも素晴らしい人物でしょうか。

佐崎悠里

『ジョン・F・ケネディの暗殺者』

教師の「メント

家庭的なお父さんを返して下さい。

そして・・・

Bクラス VS Fクラス 勝者 Fクラス

「もうすぐだぜ・・・一ノ瀬桜咲」

## バカテスト（後書き）

次からAクラス戦に入ります。

## 第一話

Fクラス

「次が俺たちの最後の戦いになるだろ。」今まで来れたのはお前らのおかげだ。

絶対に勝つためにもAクラス戦は一騎打ちをしたいと思つ。」

「それはどうこいつ」とぞしょつか? Aクラスに對しての一騎打ちは無謀すぎると思います。

何か策があるとしても万が一の場合一騎打ちはあとがありません。

一騎打ちだけはやめるべきです。」

「・・・確かに。負けた場合、今までのことがパアになるのは防ぐべき・・・。」

「なら、5人ずつとこいつのはじりじや? クラスで代表を決めるようにするのじや。」

「それがいいな。じゃあAクラス代表に話に行くか・・・。」

Aクラス

「とにかく」と、FクラスはAクラスに召喚戦争を挑む。それで  
もいいか?」

雄一がFクラス代表として、Fクラスの人を何人か連れてやつてきた。

Fクラスと召喚戦争が始まるみたいだ。

特別ルールみたいだけど霧島さんは受け入れるのかな？

「……わかった。……明日の午後から……。」

どうやらやるみたいだね。順番はどうするんだろう。  
そう思つてたんだけど……

ブルつ

なんだかさつきからすごい殺氣みたいなものを感じるんだけど……

「明久、なんだかじつと見られてる気がするんだけど……ほら  
あの人。」

「桜咲もかあ、あんな子去年からいたっけ？」

「ううん、知らない。でも殺氣とは別に明久のことずっと見てな  
い？」

なんだか知つてる気はするんだけど……思い出せないな。

「なんとなく知つてる気がするんだけどな……。」

そう言つたら桜咲はむくれちゃつた。

そしてぼそつと、何かをつぶやいたみたいだけど僕には聞こえなかつた。

「『めんつてば、たぶん僕の勘違いだと思つよ。ねつ?』

「別に謝る必要なんかないよ・・・。」

桜咲はやつぱり何か怒つてゐみたいだ。  
あとで和真にでも聞いてみようかな?

そんなことをしたら、

「それじゃあ、戻るか・・・おいつ明久!お前、俺と戦えよな!」

「そう言つて雄一は出て行つてしまつた。でもなんで僕となんだろ  
う?」

「明久は鈍感だから大変よ?」

優子?誰に向かつて言つてるんだよ。  
それに僕のどこが鈍感なんだよ。

「何言つてるの明久は鈍感だよ。」

桜咲まで・・・ていうか僕の心、読んだな。

「だつてダダ漏れだもん。」

「えつ、そんなに?」

「うん!」

やばいなあ、気を付けないと。

ちなみに桜咲が僕の心を読めるように、僕も桜咲の心が読める。

お互いなんとかはわかんないけどね？

「ううえーす・・・

「そういうことで、霧島さん。明日の召喚戦争、雄一とやらせてもらひうけどいいかな？」

霧島さんは「クつと頷いてくれた。よかつた、嫌われてるわけじゃないみたい。

「じゃあ、今日はもう解散ね。その前に明日召喚戦争に出る人だけ決めましょーか。」

「僕は決定だね。」

そうすると桜咲もかな？

「明久が出るなら私も出るよ。」

やつぱりね。それとあつちは康太を出すだろから、

「俺も出る。」

うん、和真もだ。康太と戦えるのは和真くらいだもんね。

「私も出させてもらひわ。」

優子だ・・・あとは代表の霧島さんで決定だね。みんなもそれでいいみたいだし・・・

「じゃあ全員、解散ね。」

やつと一日が終わった、今日は結構疲れたかも。早く帰ろ。

「桜咲、帰る?」

「うん、今日は結構疲れたもんね」

カバンもちゃんと片付けたし、よしつ。

『じゃあ、優子、和真。また明日ね。』

「うん、またな。」

「また明日、遅刻はしないようにね。」

自然と手が触れる・・・そして繋がった。  
いつもこんな感じだ。ふたりきりになると、なんだかひつつきむ  
しになる。  
そんなところが可愛いんだけどね

そしてそんなふたりをよそに

「なによ、あれ・・・。一ノ瀬桜咲、絶対許さないわよ。

一人の少女が暴走し始めていた・・・。

」

## 第一話（後書き）

召喚戦争、上手くいけないかもしません。

とりあえず、和真と桜咲の腕輪の能力と名前を募集します。

よろしくお願いします。

もしかしたら、そのままこいつと思っています。

## 第三話（前書き）

お久しぶりです。

その理由はあとがきで・・・

新キャラ登場！

桜咲と手をつないで帰る。

別に僕らは付き合つてるわけじゃがない。

桜咲はとても大切だけど、それが恋愛感情なのかはわからない。  
だけどあの時から桜咲は僕の大切な子だ。

「明久、今日も家で」」飯食べてつてだつて。お母さんから連絡きた。

「ふーん、そつか。じゃあ今日は僕が夕御飯つくろつかな。」

高校になつてから一人暮らしを始めた僕に桜咲の家族は世話を焼いてくれている。

朝御飯も夕御飯も、」」馳走になつてるし、ほとんどを桜の家で過ごしている気がするな。

「なら、お母さんに連絡しどくね。買い物もいく？」

「うん、そうじよつか。なんか食べたいのある？」

自分で言うのもなんだけど、料理は全般得意だ。多分なんでも作れると思つ。

「えーと・・・ロールキャベツとホワイトシチューかな、あとデザートも欲しいかも」「

「サラダはポテトサラダだね。デザートはリンゴのソルベでいいかな。」

「うん それじゃあ買い物に行こう。」

「買い物終了」

桜の家に着いた。桜の家は僕が住んでるマンションの隣にある。小学校は一緒じゃないの?と思う人もいるだろ?けど桜咲は中学のときに引っ越ししてきたから小学校は違うんだ。

『おかえり、明久くん・桜咲。』「おかえり、明久兄ちゃん・桜咲ちゃん。」

桜咲のお父さんとお母さん、桜咲の弟・太一が迎えてくれた。

『ただいま』

みんな優しくて暖かい人たちだ。

太一なんか本当の弟みたいで、いつも一緒にゲームをしたりする。

とりあえず僕が今することは

『それじゃあ、キッチン借りますね。』

「ええ、どうぞ。それよりもまだ敬語なの? (グスッ)」

「そんな、お義父さんは悲しいよ・・・(グスッ)」

あの、あなたお義父さんじゃなし……一人して泣かれると困るよ。

桜咲あ、助けて！！

そう思つて桜咲を見てみると、顔を赤らめてた。

なんでだよ！！！

『お義父さん（お義母さん）って呼んでもいいんだよ（いいのよ）』

ちょっと、まつて、くつつかないで、

そういうば、た、太一は？

』

「ほんと、バカばつか……でも早く明久兄ちゃんと桜咲姉ちゃんが

結婚してくれればいいのに。」

えっ、今の何！？

## 第三話（後書き）

おそかつた理由・・・一言で言えれば浮氣です。

どうしても書きたくないなつたお話があつて・・・。

衝動書きしてました。

原作をお知りの方で、読んでもいひつて方は見てみて下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6741z/>

---

バカとテストと召喚獣～ボクラノ学園生活～

2012年1月8日21時52分発行